

— 経営理念 —

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

— 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、
安心・安全なものづくりを約束します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

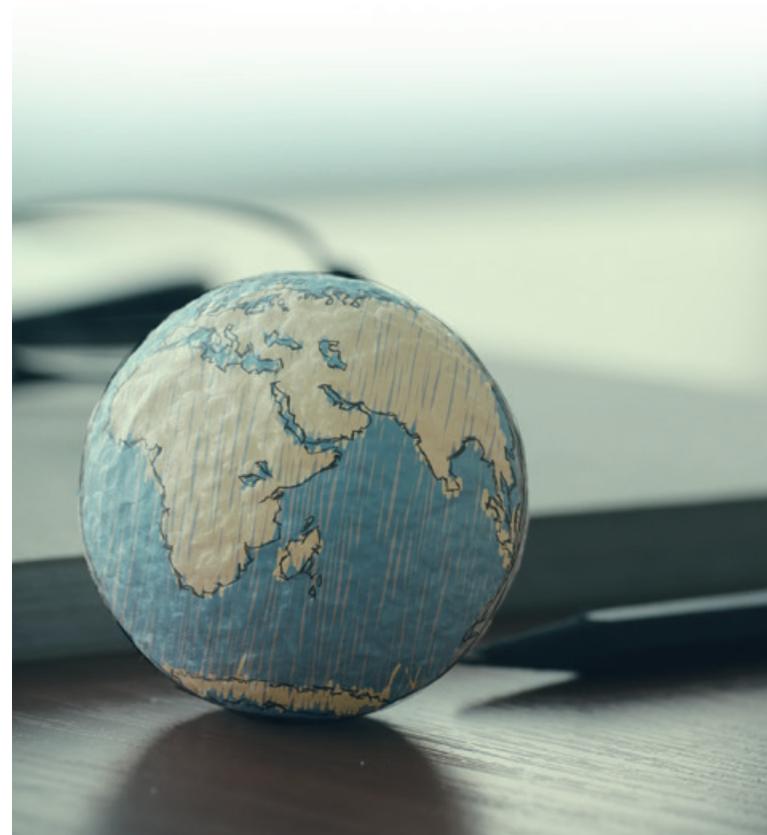
公告方法 電子公告
公告掲載URL <http://www.fkkasei.co.jp>
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告
できない場合は、日本経済新聞に掲載します

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



Interim Business Report

第114期 中間報告書

2024年4月1日～2024年9月30日



To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社第114期中間期（2024年4月1日から2024年9月30日まで）の営業概況等につきご報告申し上げます。

2024年12月

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善により、緩やかな回復の動きが見られましたが、資源価格の高騰や為替変動による物価上昇の影響により今後も先行き不透明な状況が続くものと思われまます。

海外経済におきましては、ウクライナ情勢や中東情勢の緊張の長期化、欧米の高い金利水準の継続や中国における不動産市場停滞の影響など、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクとなっており、先行き不透明な状況で推移するものと思われまます。

このような環境の下、当中間連結会計期間の売上高は290億30百万円（前年同期比10.5%増）となり、営業利益は7億27百万円（同41.8%増）、経常利益は10億84百万円（同41.6%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は7億15百万円（同91.2%増）となりました。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

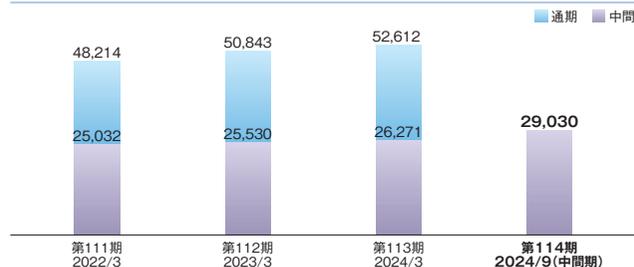
代表取締役社長 **加藤 大輔**

Financial Highlights

連結財務ハイライト

売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



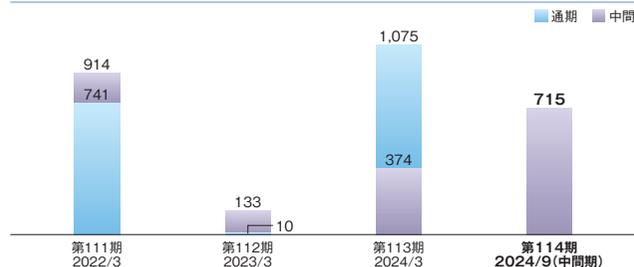
経常利益

(単位：百万円)



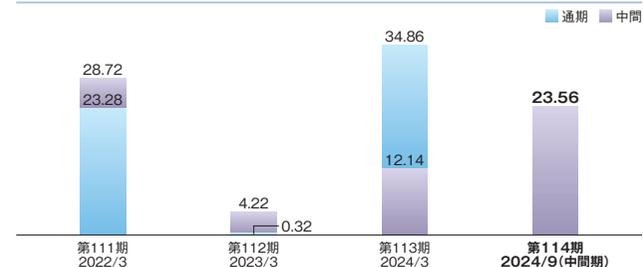
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益

(単位：百万円)



1株当たり中間(当期)純利益

(単位：円)



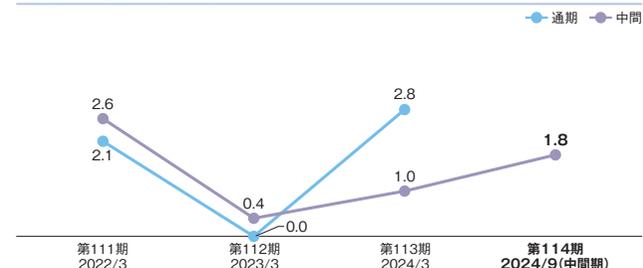
1株当たり純資産額

(単位：円)



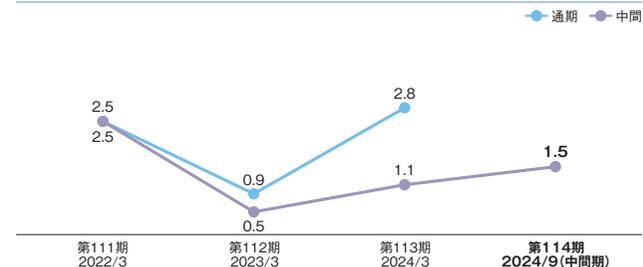
自己資本利益率 (ROE)

(単位：%)



総資産事業利益率 (ROA)

(単位：%)



Segment Review

(単位：百万円)

コーティング事業



主要分野

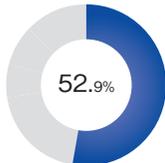
自動車内装分野、自動車外装分野、
自動車電装部品分野、
化粧品容器関連分野、
家電分野、ホビー分野、
農業資材分野

プラスチック用コーティング材（『レクラック』・『フジハード』など）を取扱うコーティングセグメントにおきましては、自動車向け塗料の国内の販売は、自動車生産台数が安定的に回復してきたことに伴い、需要が堅調に推移いたしました。

海外の販売は、引き続き北米、インドの販売が堅調に推移した一方、中国、欧州、タイの販売が低調に推移いたしました。

非自動車分野では、化粧品容器用塗料の販売が日系化粧品メーカーの販売不振により低調だった一方、ホビー用塗料の販売が堅調に推移いたしました。

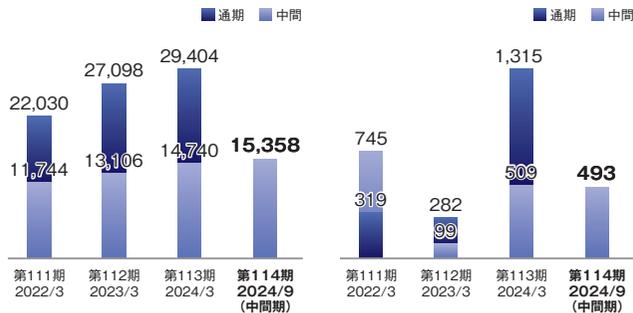
この結果、売上高は153億58百万円（前年同期比4.2%増）となり、営業利益は4億93百万円（同3.1%減）となりました。



売上高構成比

売上高
153億58百万円
(前年同期比4.2%増)

営業利益
4億93百万円
(前年同期比3.1%減)



塗料事業

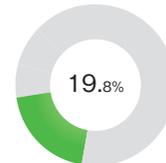


主要分野

外装建材分野、
内装建材分野、
エクステリア材分野、
住宅設備分野

建築用塗料を取扱う塗料セグメントにおきましては、新築用塗料は、引き続き主要顧客の受注が伸び悩んでいる影響を受け、需要が低調に推移いたしました。リフォーム用塗料は、一部主要顧客にて西日本エリアでのシェアアップ、塗装物件の増加などにより、販売が堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は57億49百万円（同4.1%増）となり、営業利益は98百万円（同89.7%増）となりました。



売上高構成比

売上高
57億49百万円
(前年同期比4.1%増)

営業利益
98百万円
(前年同期比89.7%増)



電子材料事業

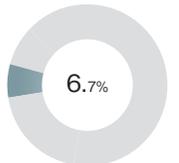


主要分野

通信機器分野、
表示体分野、
家電分野、
車載用電子機器分野、
OA機器分野

導電性樹脂材料（『ドータイト』）などを取扱う電子材料セグメントにおきましては、車載向け製品の需要が低調に推移した一方、PC、カーナビ関連製品の販売が堅調に推移いたしました。電子部品関連市場は回復傾向が続いております。

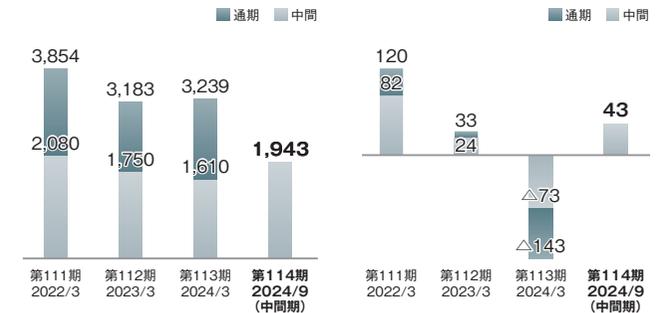
この結果、売上高は19億43百万円（同20.7%増）となり、営業利益は43百万円（前年同期は営業損失73百万円）となりました。



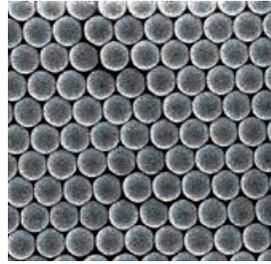
売上高構成比

売上高
19億43百万円
(前年同期比20.7%増)

営業利益
43百万円
(前年同期比 -)



化成品事業



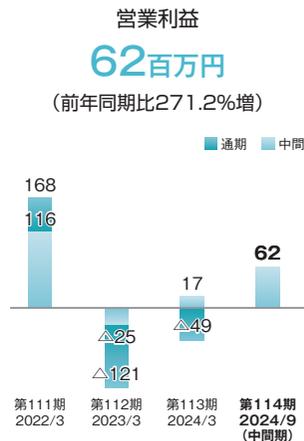
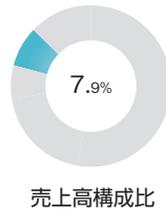
主要分野

トナー用樹脂分野、
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、
ディスプレイデバイス分野、
医療材料分野、
電子部品関連分野

トナー関連材料、粘・接着剤ベース（『アクリベース』）や医療材料を取扱う化成品セグメントにおきましては、トナー用樹脂や電荷制御剤に加え、電子部品用粘着剤や新たに発売したUV剥離型粘着剤の販売が好調に推移いたしました。

メディカル材料分野におきましては、糖尿病診断薬は前年並みの売り上げを確保しましたが、原料ラテックスの中国での販売が低調に推移いたしました。

この結果、売上高は23億4百万円（同10.3%増）となり、営業利益は62百万円（同271.2%増）となりました。



合成樹脂事業

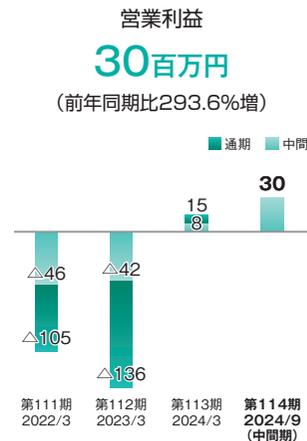
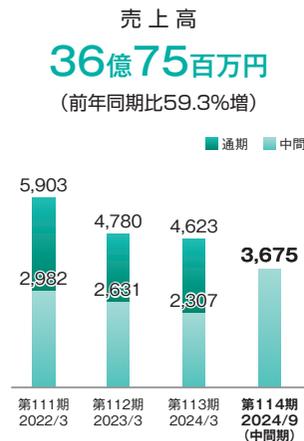
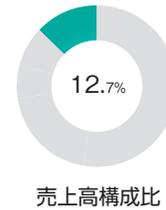


主要分野

高機能光学材料分野、
工業用銘板分野、
産業資材分野

子会社藤光樹脂株式会社などが取扱う、樹脂製品の仕入・販売を行う合成樹脂セグメントにおきましては、北米向けのアクリル樹脂原料の販売が大きく伸張した一方、リチウムイオン電池用製品の販売は第2四半期に入り市場が鈍化したことにより低調に推移いたしました。

この結果、売上高は36億75百万円（同59.3%増）となり、営業利益は30百万円（同293.6%増）となりました。



会社概要 (2024年9月30日現在)

会社名 藤倉化成株式会社
 本店所在地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号
 本社事務所 東京都港区芝公園二丁目6番15号
 設立 1938年9月22日
 資本金 53億5千2百万円
 従業員数 連結 1,234名
 単体 441名
 連結子会社数 国内 4社 海外 15社
 ホームページ <http://www.fkkasei.co.jp>

株式の状況 (2024年9月30日現在)

発行可能株式総数 84,000,000株
 発行済株式の総数 30,850,000株
 株主数 6,496名

TOPIC

株主還元方針について

当社は2023年4月からスタートした第11次中期経営計画期間中の株主還元方針を以下の通り定めました。

- ・年間配当金16円以上を維持しつつ、総還元性向70%以上を目指す
- ・機動的な自己株式の取得を行う

2023年度は計画通りの利益を達成することができず年間配当金を16円といたしました。

2024年度は総額約5億円、93万株の自己株式の取得を行うとともに、年間配当金は2円増額の18円として計画しています。

引き続き、安定的な配当を基本とし、将来の事業計画を勘案しながら株主還元を実施してまいります。

1株当たり年間配当金の推移



自己株式の取得実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
自己株式の取得額	-	4.4億円	-	4.9億円